



平成27年12月15日

2・3面	フルーツレシピコンテ
4面	スト受賞作品再現
5面	史学会研修旅行
6面	みんなで仲良くみんなの宝
7面	女性団体連絡会主催講演会
8面	すぽっと
	ひと・飯伊市町村対抗駅伝
	こどもの詩・俳句・短歌
	地域を知る講座・視点
	べんべん草



「ふじまつり」

町内外からたくさんの方が、りんごを求めて訪れました。

町民憲章の2番目に「教育と文化の香り高い町をつくりましょ」という一節があります。「文化の高い香りのする町」について考えたいと思います。

10月下旬に開かれた松川町文化祭には600点余の作品の展示、発表がありました。その一つ一つには、つくられた方々の感動・願い・心・知恵・技が込められています。2年ほど前に、元教育長 柄郁夫先生が、地方紙に「町民の方が故郷松川に根を張って、こつこつと真摯に精進を重ねてつくられた作品は町の宝だ。町の精神文化の泉だ」という一文を寄せられていました。このような町民の皆さんの心のこもった作品が、沢山展示されている場が、文化の高い香りがする場かなと思います。

松川町は、文化祭が町の文化祭の他に地区館でも開かれ、文化の香りを感ずる場が多くあり、素晴らしいことだと思います。

しかし、最近、少子高齢化の影響もあり、文化活動にかかわる方々が少なくなってきたという課題があります。一方、その解決に向けたチャンスの一つとなる公民館改築が進んでいます。

新しい公民館は文化の香りのする場になるよう様々な工夫がされています。例えば、1階ですが、町民の皆さんの作品を常時展示できるギャラリー、情報発信というメディア文化に触れ

主張 文化活動を考える

～文化の高い香りのする町に～

8月下旬、より多くの町民の皆さんが新しい公民館へ集い、学んでいただけるためのきつかけ作り・仲間づくりとして、文化協会に全面的な協力をいただき、1日体験講座をもちました。お箏、尺八、俳句、囲碁、ダンス、水彩画、読み聞かせ等10講座を開設し、60名近い方に体験をしていただきました。なかには、仲間と一緒にこれから学ぼうというグループが生まれています。

講座の講師の方々から「文化活動が盛んになるようお手伝いをしましょう」「退職して少し余裕が出来たので、地域に恩返しをしたい」「参加者一人でもやりますよ」等々そんなお言葉をいただいて、ボランティアとしてご指導いただきました。その方々は、文化の香りを発する一番元の源泉かなと思います。

公民館改築をチャンスとして受け止め、町の文化活動を高め、文化の高い香りのする町づくりのために、文化協会の皆様方、また、素晴らしい力をお持ちの方々を協力を得ながら、今回の体験講座のような学び・仲間づくりのきつかけになる取り組みを考えてまいりたいと思います。

公民館長 矢澤 登

作ってみよう!!

シピコンテスト受賞作品～

松川町は今年、果樹栽培百年ということで、さまざまな行事が行われています。

その一環で、フルーツレシピコンテストが夏の部と秋の部の2回ありました。

そのうち9月の秋の部で受賞したレシピのなかから3品を作ってみました。

最優秀賞



材料 (3人分)

洋なし	1個
無塩バター	10g
とろけるチーズ	60g
☆カスタードクリーム	
卵黄	3個
砂糖	60g
薄力粉	20g
牛乳	300cc
バニラエッセンス	少々



材料のラ・フランス



カスタードクリームと洋なしのソテー

- 卵黄と砂糖と薄力粉を混ぜる。(A)
- 牛乳にバニラエッセンスを入れて、沸騰直前まで温める。(B)
- (A)に(B)を少しずつ入れて、ダマにならないように混ぜる。

- (3)を鍋にもどし火を入れ、焦げ付かないように混ぜる。
- ヘラが重くなってきたら火からおろし、とろみがつくまで混ぜる。

- 粗熱がとれたら、カスタードの完成。
- 洋なしを薄切りにする。
- 無塩バターをフライパンに入れて中火で溶かし、洋なしを入れて炒める。少し火が入ったら、耐熱容器に入れる。

- 器にカスタードをかけ、とろけるチーズをかける。
- オーブンに入れてチーズが焼けてきたら完成。

今回は、元レシピより砂糖を20gほど減らして、洋なしの甘さを活かしてみました。焼きたて熱々で、チーズがとろけているうちに食べると最高です。



果物を使ってパレました。自分しながら、ご家いかがでしょう。



チーズの焦げ目がついて、洋なしグラタンの完成

優秀賞



材料 (4人分・8串分)

ごはん	800g
りんご	400g
みそ	160g
くるみ	160g
酒	240cc
サラダ油	少々



りんごのみじん切りとすりつぶしたクルミを炒めます

- りんごはみじん切りにしておく。
- 温めたフライパンにサラダ油を入れ、①を焦げさないように炒める。(中火で5分程度)

みんなで ～フルーツレ



材料 (4人分)

- りんご(紅玉) …… 4個
- 無塩バター …… 40g
- 砂糖 …… 20g
- はちみつ …… 20g
- レーズン …… 大きじ 4
- シナモン 少々



りんごをくり抜きます



身の回りにある
ティッシュ気分にな
たちでアレンジを
庭で作ってみては



クランブルに焦げ目がつくまで焼きます

☆クランブル
無塩バター・薄力粉・砂
糖アーモンドパウダー
……………各40g
ラム酒 少々

①クランブルを作る。クランブル用のバターをサイコロ切りにし冷蔵庫で冷やし、薄力粉・アーモンドパウダー・砂糖と混ぜ、指ですりつぶすようになじませ、全体がそぼろ状になるようにする。ラム酒を少し加えると、まとまりやすい。使うまで冷蔵庫に入れておく。



具を詰めます

②りんごは皮をよく洗い、横半分に切り、芯をくり抜く。安定するように底部分を薄く切り、切り口を上にして耐熱皿にのせる。

③無塩バター・砂糖・はちみつ・レーズン・シナモンを混ぜ、②のりんごの穴に詰め、③の全体に①のそぼろを散らして、180℃に温めたオーブンで15〜20分焼く。



焼きリンゴの甘い香りとともに完成

ただの焼きリンゴにはないアクセントが加わって大人の焼きリンゴになりました。今回は丸々1個をくり抜いてみましたが、1個を横半分にしてりんごの厚さを薄くした方が、火の通りが良くなっておいしいかもしれません。



みそに焦げ目がついて完成

砂糖が小さい入っていないので、ちよつと辛めの仕上がりになりました。甘さがかかり控えめなので、甘辛いのが好きの方は砂糖などで調整してみてください。

- ④ 熱いご飯を半殺しにして、水につけた型などを利用して、形を作る。
 - ⑤ 形を作ったご飯を串に刺し、③を両面にまんべんなくつける。
 - ⑥ 炭火またはガスで表面が焦げる程度に焼き目をつける。
 - ⑦ 完成!!
- ③②のりんごに火が通り、水分が飛んできたなら、すりつぶしたくろみと日本酒で溶いたみそを加え、さらに水分がなくなるまで火を通す。(焦げ易いので注意する)

史学会主催研修旅行
 おくのほそ道 山寺・羽黒山探訪
 芭蕉名句、山岳信仰と廃仏毀釈

11月10日、11日の二日間、松川町史学会主催の研修旅行が実施されました。今年度のテーマは、『おくのほそ道山寺と羽黒山』で、山形県の立石寺、羽黒山の出羽神社を探訪しました。



◆通称「山寺」は立石寺という天台宗の古刹で、松島の瑞巖寺、平泉の中尊寺と共に東北を代表する寺院です。一般に山寺が広く知られるのは、江戸時代、俳聖松尾芭蕉翁がこの地を訪れ、「閑さや岩に

しみ入る蟬の声」の句を詠み、『おくのほそ道』に記したことです。
 登山口から山上の奥の院までは1,200段の石段を含む修行の山道、途中にある多くの文化財、史跡を探訪しつつ、ゆっくりゆっくり、1時間ほどをかけ全員山上に登りました。圧巻は芭蕉翁の蟬塚。山寺を詠んだ芭蕉の短冊が埋められています。芭蕉はこの地を訪れる予定はなかったのですが、ある人に勧められ尾花沢から行程を変更して山寺を訪れ、この名句を残したと言われます。一同、雨上がり



の紅葉に染まる晩秋の霊山に佇み、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」を口に、夏の山寺の様を思い浮かべました。
 奥の院の如法堂・大仏殿拝観後、開山堂・納経堂前で記念撮影、岩上に舞台造りの五大堂に登り紅葉に染まる眼下の絶景を満喫しました。
 ◆宿泊は蔵王の麓、黒沢温泉。早々温泉につき、東北



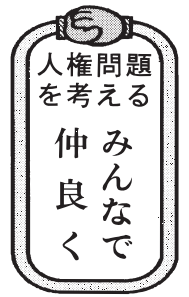
の料理を堪能し、山形の美酒を頂いて大いに話がはずみ、遅くまで懇親を深めました。
 ◆出羽三山の一つ羽黒山は古くから神仏習合の修験道の霊山で、今、羽黒山にある出羽神社は月山・湯殿山・羽黒山の三山の神を併せ祀っています。明治の神仏分離、廃仏毀釈で仏教的なものとは徹底的に廃されました。祓川に架かる神橋を渡った



は何処の仏像か分からない無数の仏像・仏具などの什物を拝観し、廃仏毀釈の激しさを痛感しました。
 ◆出羽神社では萱葺きとしては日本随一の三神合祭殿を拝観しました。境内には芭蕉野口(三山)句碑があり、芭蕉翁が出羽三山を詠んだ

「涼しさやほの三日月の羽黒山」「語られぬ湯殿にぬらす袂かな」「雲の峰幾つ崩て月の山」の三句が刻まれています。二句目、湯殿山の句は万葉仮名で刻まれており、一同苦心して読みました。
 ◆山形という遠方の地、10時間という貸切バスの車中も、ビデオ鑑賞、ビンゴゲームやカラオケ等、時のたつのも忘れて楽しく、一行23人、有意義な旅を満喫しました。
 ◆史学会では会員を募集しています。入会はお近くの会員までお願いします。

羽黒山の登山口にある五重塔は東北一、優美で最古と言われます。元はこの地にあった寺院の塔で、奇跡的に廃仏毀釈を免れ、仏教と共にあつたかつての羽黒山を偲ばせます。ここに至るも隨身門から継子坂を下ります。ここでもゆつくりゆつくり、時間をかけて全員拝観、「素晴らしい、来てよかった！」の声と共に記念写真に納まりました。
 ◆羽黒山にある出羽三山歴史博物館では、羽黒山の修験道と共に廃仏毀釈について学びました。破壊された寺院や堂から持ち出され、今となっては何処の仏像か分からない無数の仏像・仏具などの什物を拝観し、廃仏毀釈の激しさを痛感しました。



なかよしの木について

中央小6年 松久 奈央

私たちの学校では、代表委員会が「なかよしの木」と言う物をきかれています。

それではなかよしの木の説明をします。各教室に、りんごやなしやかきやくりの絵が書いてある紙がおいてあり、その紙の一番上の段落に「さん」と、書いてあるのでそこに友達の名前を書きます。その下の段落は、うれしかった事、感謝の一言を書きます。それで一番下の段落に自分の名前を書き、教室にはってある大きな紙へはります。

その友達が自分が書いた紙を見るところうれしいし、おかしししようと思う事でおたがいの仲が深まるし、色々な果物の紙がいっぱいはられて豊かなクラスになります。

このようなきかくをつくってくれた代表委員会に感謝しています。

これを機に、友達を大事に

楽しい学校生活をすごしつつ中学生へ向けて勉強をがんばり、友情を大切に成長していきたいと思えます。

友だちは大事

中央小6年 田村 菜桜

私にとって「友だちとは？」

と考えたとき私はかけがえないものともっと先に頭にうかんできました。この松川中央小ではもちろんいじめはなく、ほかの学年の子と仲のいいという人がたくさんいます。中でもけやき集会や全校運動で遊んだりして、とても仲良くになれるようなきかくをつくっています。

友だちとは、絶対傷つけたら傷つけられたり、けんかしたりいっしょに遊んだり、楽しんだり、時にはなきかくいぐらい悲しいこともあるけれど、どんな時ともに歩んで行くものだと思います。なので私もどんなことがあっても友だちを大事にして仲良くやっていきたいと思えます。あと何ヶ月かの小学校生活、一日一日を大切に、友達、そして勉強も中学にむけてがんばっていきます。



松川町指定文化財 元大島防空監視哨

第7回

先月に引き続き、シニア大

学36期生、郷土の歴史を学習している皆さんと共に防空監視哨を紹介いたします。参加された方々に防空監視哨の学習のまとめを書いていただきました。



米山智明さんを囲んで

うと頑張っていたのかと思うと胸の詰まる思いでした。最後に米山さんが『これからの子ども達の為に戦争は絶対やっ

てはダメだに』とおっしゃった言葉が胸に大変重く響きました」と記載されていました。

米山智明さんとの出会いについても「当時監視哨に勤務した人たちはほとんど亡くな

られ、貴重なお話を伺える方がいなくなりつつあります。そんな中で私達はお元気で86歳になられる米山さんにお会いできて、お話を聞く良い機会に恵まれたことは本当に有難いことでした。当時も今も監視哨があったことも、そこで少年たちが厳しい勤務をしたこともほとんど知られていないと言う事実を、これを機会に私達が語り継いでいくことが大事だと思えました」とも記載されていました。

今回の米山さんのお話で、当時の監視哨の様子を知ることができました。又、監視哨の地主であります岡村英春さんにも、お母さんとの当時の話の中で、「よく監視哨の畑に行ってくる」と母が言っていたという話など、今まで私自身が知らなかったことが皆

さんとの出会いから知ることができたことに、感謝の思いです。

戦中戦後と厳しい時代を生きてきた米山さん、そしてメンバーの皆さんも米山さんよりも一回り以上お若い皆さんですが、それぞれ戦後の日本を支えてくれた皆さんです。雑談の中で、戦争に対する二度と繰り返してはいけないという思いを何度も繰り返



現在の防空監視哨

し話されていた皆さん。戦争を知らない我々若い世代に実際に体験した方々のお話を聞くという、一番率直に伝わる良き機会。戦後70年という節目にこだわることなく続けていかなってはいけないことだと痛感しました。

松川町資料館 宮崎久美

私たちにも 何かできそう！ おもしろスイッチオン 〜女性たちの笑顔を つくろう〜

松川女性団体連絡会



講師の太田美帆さん

10月31日(土)松川町役場大
会議室で女団連主催の講演会
がありました。

講師は玉川大学文学部准教
授の太田美帆さん。

ガーナの民族衣装を着た太
田さんは、美しく笑顔の魅
力的な人。今はジャイカ他で
活動されているそうです。

太田さんが海外の発展途上
国で活動されるきっかけとなっ
たのは大学時代に教育学を学
んだ事。現代教育の諸問題・
格差社会への疑問などを考え
た時、私の大学生生活って、こ
れでイイのかな？と思われた
そうです。

そこでフィリピンの植林ボ
ランティアに参加。良い事を
したと気持ち良く汗をかいた

はずが、日本人は自分達のた
めに伐採したのだから、木を
植えるのは当たり前だよ、と
現地の人に言われてしまう。
ショックだった。そうです。

大金を寄付するより現地に
行って体験し、日本の皆さん
に知ってもらおう！

この気持ちから卒業して、
アフリカのガーナへ。

青年海外協力隊、村落開発
普及員として電気水道のない
農村で2年間活動されて、学
校建設に尽力されました。

アフリカ、中南米等で活動
されている太田さんですが、
卒業してすぐ海外へ行かれた
のには、お母様の広く温かい
気持ちが大きかったとか。

娘が知らない海外へ行くの
を後押しされた母の愛。当日
会場にいらつしやったお母様
の笑顔こそ、太田さんの目指
しているらつしやる女性の最高
の笑顔なのではないでしょう
か？



楽しいゲームで
笑顔がはじけます

す ぽっと

若者が集まり楽しめました

11月21日(土)、名子原体育

館にて町内の若者が集まり、
スポーツ交流会を行いました。

この交流会は、平成26・27
年度の成人式実行委員が中心
となり企画・実施をしたもの
で、当日は約20名の若者が集
まりました。前半は、ニュー
スポーツであるドッジビーを
通じて、また後半は懇親会を
行い、交流を深めました。

近年の松川町公民館では、
若者の地域活動への参加が課
題の一つとなっており、「若
者と地域を公民館でつなげた
い」「若者が地域へ出たとき
に公民館でどんな後押しがで
きるか」といったことを研究
しています。

今回の企画は、そんな公民
館からの呼びかけで実現した
もので、交流をしながら社会
教育活動として何ができるの
か知ってもらいたいと考えま
した。

これを機に、多くの若者が
集い、活発な活動へと発展し
てほしい、若者の活気があふ
れる公民館、地域へとつながっ
てほしいと願います。

若者からの感想

はじめこの若者事業のこと
を聞いたとき、正直、「きつ
と大人数は集まらないだろう
し、成人して小学生がしそ
うな遊びをするなんて…」と期
待なんてしていませんでした。
そして、集まったのは20人
弱でした。みんないろいろ思
うことがあったとは思いますが、
実際みんなで思いつきり
遊んでみて素直に思ったのは、
予想以上に楽しかったです。
その後の親睦会では、最初
よりも多くの人が集まってく



白熱したゲーム展開となりました

毎月第3日曜日は
家族ふれあう
「家庭の日」

れてお酒も進み、たぶん学生
だった頃よりいろんな話が
できたのではないかと思います。
私はこの若者事業を今回限
りで終わらせたくないです。
このような機会をつくって
くれた公民館の皆さんに感
謝したいと思います。
そして、こうやって公民
館をもっと使い、若者がもつ
と公民館を頼っているんな
ことを提案していいんだと
思いました。
今回のような企画に、興
味・関心を持ってくれる若
者は非常に少ないです。ど
うしたら、もっと若者が集ま
てくれるかが、町全体そし
て私たち若者の課題でもあ
るのではないかと思います。



フルーツレシピコンテスト

秋の部 優秀賞

宮下 智博さん

松川町果樹栽培百年記念事業の一環として行われたフルーツレシピコンテストで、応募レシピ55点の中から、見事秋の部優秀賞を受賞された、西山の宮下智博さん。



普段から料理をする事が好

きという宮下さんのレシピは、「りんごへいもち」。なんとも可愛い名前のレシピ名ですが、審査項目の①松川町のくだものをメインとしたわかりやすいレシピ②家庭で再現できるもの③松川町民に好まれるレシピ④観光客の皆さんが作りたくなるレシピという項目を名前、味ともに見事にクリアし今回の受賞に。

まずレシピのネーミングから決まったという宮下さん。松川のりんごと故郷を思い出す五平餅の組み合わせが、その家その家独自の「りんごへいもち」ができたらとの思いで完成した今回のレシピ。昔は、親戚が集まるとみんなで五平餅を手作りしては、会話を弾ませたもの。果樹百年の節目に新たにりんごとの組み合わせで誕生した「りんごへいもち」を皆さんも一度作ってみてはいかがでしょうか。

松川町 選手優勝

第2回 飯伊市町村対抗駅伝競走大会

12月6日(日) 飯田市川路天竜川河川敷周回コース
タイム:1時間9分23秒

出場選手

- 第1区 松山 克敏
- 第2区 山岸 鈴加
- 第3区 久保田 隼仁
- 第4区 森本 恵生
- 第5区 米山 祐貴

- 第7区 羽生 大起
- 第11区 福島 圭亮

- 6年生男子の部
 - 第4区 北村 隆之介 7分17秒
- 6年生女子の部
 - 第6区 西村 歩華 8分15秒
 - 第7区 宮内 笑夢 8分28秒

小学生競走大会も同時開催

- 4年生男子の部
 - 第6位 山田 隼輔 7分58秒

- 5年生女子の部
 - 第1位 佐藤 悠花 7分11秒
 - 第2位 筒井 心葉 7分25秒
 - 第5位 佐藤 綾花 7分53秒



こころの詩

楽しかった夕方
中央小3年

松下 愛子

「フリスビーやろ。」
私がかまうと

「できるかなあ。」

「おばあちゃんか言いました。」

私がかいつばいなけると

「わあ、高い。」

とおばあちゃん。

今度はおばあちゃんが

「どつた。」

と言いなからなげました。

私が

「おばあちゃんも高い。」

と大きな声で言いました。

おばあちゃんが、

「ひさしぶりに、あんなに

はねたよ。」

あせをかきながら言ってたよ。

やきいも

中央小3年 河村 悠

いもをほろろ

火の中に入れよう

まだかなあ

もついいか

とつてみよう

あつついよ

食べてみよう

おいしいよ

ほくほくた

やつぱり秋は

やきいもた

俳句

北原愛子 (弥久司)

友病みて夫の手料理そばの味

秋の灯や本を片手にひと眠り

夕焼けの初冠雪や塩見岳

高野山寒修業する若き僧

焼き芋を頬張る赤き

ほっぺかな

短歌

斎藤登志子 (本町)

日本の産業を支えし富岡の製

糸場世界遺産となりぬ

赤ちその入れたる時期に手を痛

みて五十歳の娘に業教えたり

「どっこいしょ」声かけ椅子に腰

おろす若き日のない快樂覚う

お彼岸に実家の墓前に手を合す

叔父はビルマに戦死と記さる

庭先の真赤に染し満天星の散

りたる後に新芽膨らむ



今月の公民館

基礎工事が始まりました。



自力経済更生と果樹栽培

第6回 地域を知る講座

町史探訪の会 光澤 正之

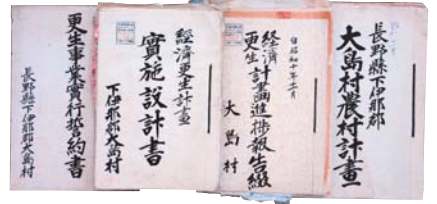
今年松川町が果樹栽培百年という事でさまざまに盛り上がった一年となりました。

一言で「百年」と言ってしまうですが、初めて果樹が植えられてから単純に果樹栽培者が増えてきたわけではなく、果樹の町となるまでには多くの困難や取り組みがありました。

今回の「公民館地域を知る講座」では、果樹栽培が盛んになった要因の一つ「大島村の自力経済更生」について学びました。講師は、元資料館職員

の酒井幸則さんです。町の歴史を学んでいる「町史探訪の会」でも今回講座に参加し一緒に学ばせていただきました。

果樹が初めて植えられた大正4年ころは、この地域は養蚕業が主要産業でした。それから十数年がたった昭和4年、世界恐慌が起こります。その影響が翌年昭和5年に長野県におよびます。生糸の価格が大暴落したことから養蚕業も大打撃を受けました。こうしたことは養蚕や製糸業界では全国的に同じでした。大島村では農家の80%が養蚕業であり、村全体が大きく疲弊してしまいます。国ではさまざまな対策を打ちますが抜本的な解決策とはなりません。そのような中、大島村では昭和6年から自力経済更生事業に取り組みます。



大島村の経済更生に関わる書類

世界恐慌の影響を大きく受けていたこのころ、最初に果樹を始めたところではすでに果実を収穫できるようになっており、良い業績もあげていました。大島村ではこのことに着目し、経済更生の中心として「果樹栽培の積極的奨励」を掲げました。つまり、農家が自分たちだけでがんばるのではなく、行政が果樹栽培に力を入れてバックアップしたわけです。果樹の選果や集荷などの施設建設、開墾、また公共施設や道路整備など、公共事業も多く行うことで賃金を支払い、住民の生活を助けてきました。



果樹栽培の歴史は今も新発見がある

2022年

僕は音楽がとて好きです。そこまで浸透していないロックが大好きです。それもインディーズバンドの音楽です。メロコアと言ったりします。ハイスタンダードというバンドの音楽を高校の時に聞いてからロックの音楽に目覚めました。

今まで、この8年間で県外にもよくライブに行ったりしました。行ったことあるのが青森、岩手、宮城、栃木、群馬、東京、千葉、神奈川、山梨、静岡、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫。挙げてみると1都2府15県に行ったことがあり、自分でも驚きました!! しかしこう見ると西の方にはあんまり行ってないんだなと思いました。

僕がよく行くライブハウスは100から400人規模のライブハウスで、狭いライブハウスの方が大好きです。より近くで音楽を感じられることができるからです!!

最近いろいろなことが忙しくて全然いけないのが残念なんです。今年、飯田でもライブをやってくれたり、この前は焼肉ロックフェスというフェスが流行ったんですが最高でした。その日は松川でもスガ系の音楽のライブにもいけていい一日でした。遠征もいいですが地元近くで自分の好きな音楽を感じられる環境があるっていいなと思いました。

フエスは騒音問題などで苦情も多いかもしれませんが、今後も残り続けて増えていってほしいなと思います。好きなバンドを挙げたかったです。が、いっぱいありすぎて無理でした(笑)。

米山拓也

公民館報
「まつかわ」
第 626 号
平成27年12月15日
発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2633
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)
再生紙を使用しています。